

岡山県感染症週報 2014 年 第 47 週 (11 月 17 日～ 11 月 23 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症 警報』発令中です。

12 月 1 日は世界エイズデーです。

◆2014 年 第 47 週 (11/17～11/23) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 45 週 2 類感染症 結核 1 名 (80 代 女)
第 46 週 2 類感染症 結核 1 名 (80 代 男)
第 47 週 2 類感染症 結核 1 名 (60 代 男)

■定点把握感染症発生状況

- 感染性胃腸炎は、県全体で 524 名 (定点あたり 7.61 → 9.70 人) の報告があり、前週より増加しました。
- インフルエンザは、県全体で 20 名 (定点あたり 0.06 → 0.24 人) の報告があり、前週より増加しました。
- RS ウイルス感染症は、県全体で 83 名 (定点あたり 1.24 → 1.54 人) の報告があり、前週より増加しました。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 63 名 (定点あたり 0.70 → 1.17 人) の報告があり、前週より増加しました。

1. 12 月 1 日は『世界エイズデー 【AIDS IS NOT OVER ～まだ終わっていない～】』です。
岡山県では『世界エイズデー (12 月 1 日)』の関連行事として、エイズに関する正しい知識の啓発活動及び保健所で夜間等の HIV 抗体検査を実施します。詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
2. [感染性胃腸炎](#)は、県全体で 524 名 (定点あたり 7.61 → 9.70 人) の報告があり、前週より増加しました。地域別では、倉敷市 (14.82 人)、岡山市 (12.43 人)、備北地域 (11.50 人) の順で定点あたり報告数が多くなっており、特に倉敷市 (9.64 → 14.82 人) で大きく増加しました。年齢別では、0-2 歳が 38% と最も多く、5 歳以下の乳幼児が全体の 67% を占めています。通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。また、この時期の感染性胃腸炎の主な原因はノロウイルスと言われています。感染予防は、流水・石鹸による手洗いの励行と嘔吐物や下痢便の適切な処理を行うことがとても重要です。嘔吐物や下痢便を処理するときには、使い捨ての手袋やエプロンを使用し、処理する人自身が感染しないように気を付けましょう。また、消毒には、塩素系漂白剤を使用し、広い範囲を消毒してください。
[『ノロウイルスに関する Q&A について』](#) 厚生労働省ホームページ
[『食中毒 \(ノロウイルス\) 注意報を発令中です』](#) 岡山県ホームページ (生活衛生課)
3. [インフルエンザ](#)は、県全体で 20 名 (定点あたり 0.06 → 0.24 人) の報告があり、前週より増加しました。県内の発生状況など詳しくは、「[インフルエンザ週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015 年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。
4. [RS ウイルス感染症](#)は、県全体で 83 名 (定点あたり 1.24 → 1.54 人) の報告があり、前週より増加しました。県内の発生状況など、詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
5. [A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎](#)は、県全体で 63 名 (定点あたり 0.70 → 1.17 人) の報告があり、前週より増加しました。過去 10 年間の同時期と比較して、報告数がもっとも多くなっています。この感染症は、突然の発熱と体のだるさ・のどの痛みで発症し、しばしば嘔吐を伴います。また、口腔内に小点状出血あるいは莓舌 (イチゴのように赤くブツブツしている舌) がみられることがあります。肺炎や髄膜炎などさまざまな合併症や二次疾患を起こすことがあり、注意が必要です。患者の年齢は、幼児よりも学童期の小児に多く見られ、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★★★★★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		★★
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)					

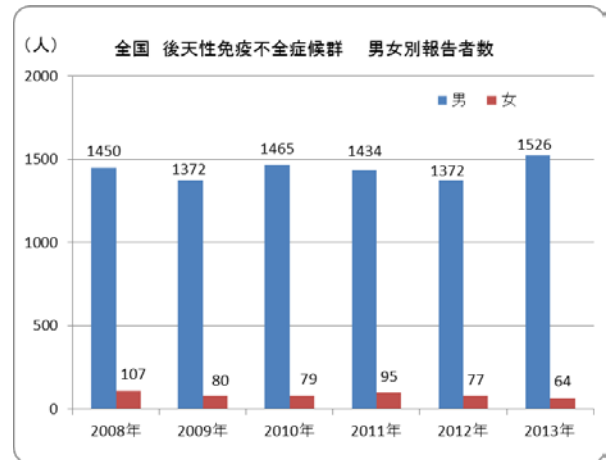
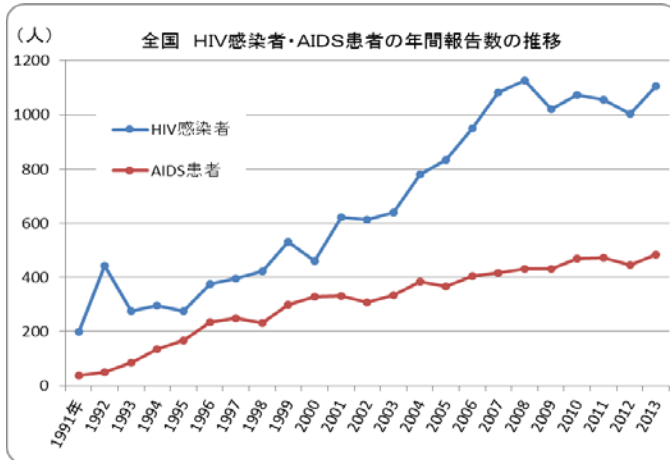
* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

1. 後天性免疫不全症候群 (AIDS)



【全国の HIV 感染者と AIDS 患者報告数】

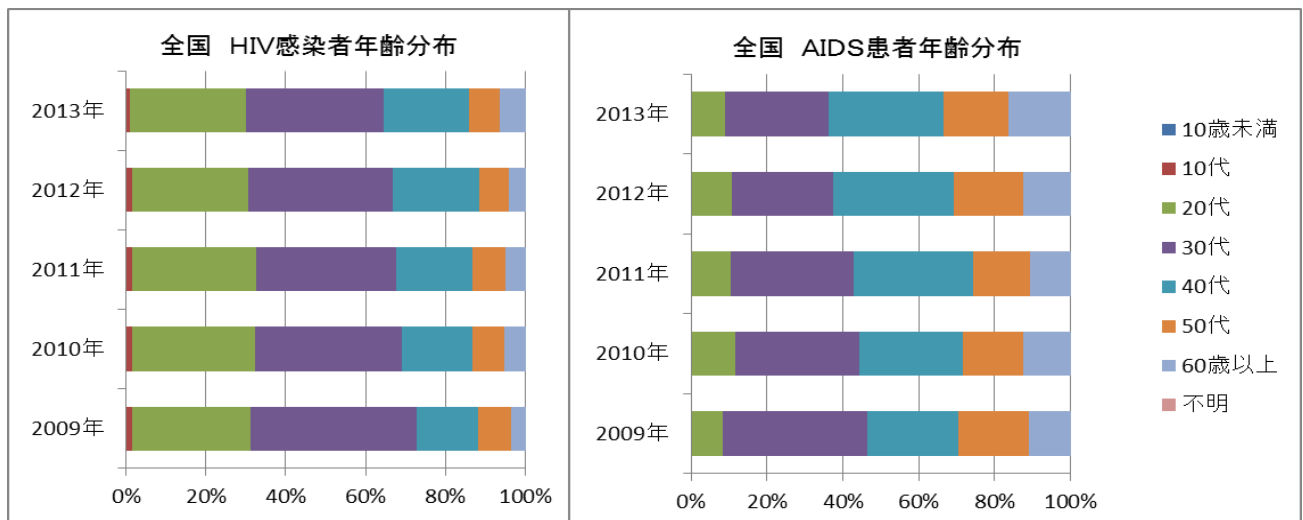
HIV 感染者及び AIDS 患者ともに、日本国籍男性が報告数の大半を占めています。HIV 感染者数は、2008 年以降増加から横ばい傾向ですが、2013 年は前年より増加しました。AIDS 患者報告数は、日本国籍男性を中心に増加傾向が続いており、2013 年は過去最多となりました。感染経路では、HIV 感染者の 70.5%、AIDS 患者の 56.4% が、同性間性的接触による感染例でした。



厚生労働省エイズ動向委員会 平成 25(2013)年 エイズ発生動向データより作成

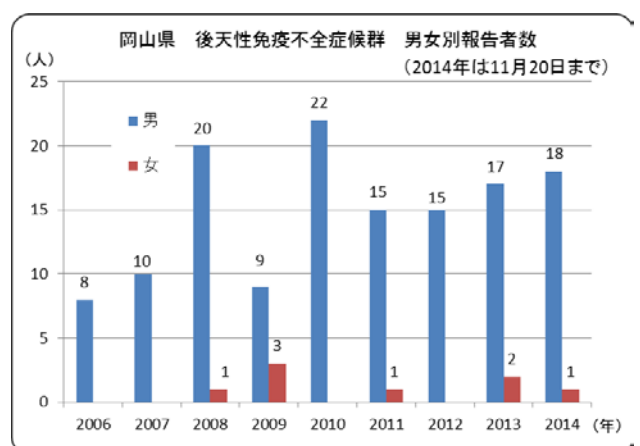
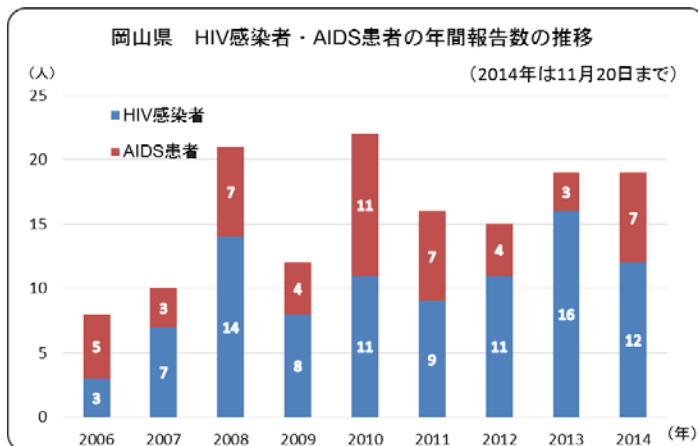
【全国の HIV 感染者と AIDS 患者の年齢分布】

HIV 感染者は 20 代、30 代に集中しており、AIDS 患者は 20 歳以上に幅広く分布し、特に 30 代、40 代で多く報告されています。また、60 歳以上の HIV 感染者及び AIDS 患者報告数が、いずれも過去最多となっています。



厚生労働省エイズ動向委員会 平成 25(2013)年 エイズ発生動向データより作成

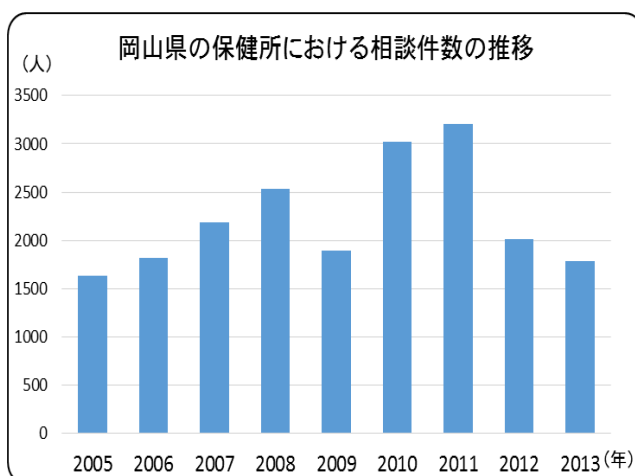
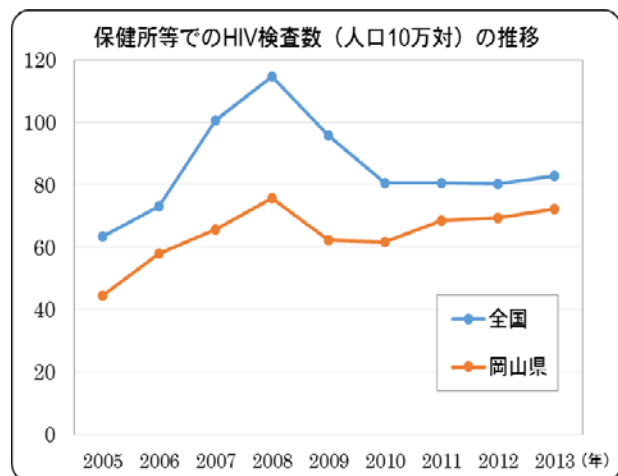
【岡山県の HIV 感染者と AIDS 患者報告数】



厚生労働省エイズ動向委員会 平成 25(2013)年 エイズ発生動向データに、感染症発生動向調査から 2014 年のデータを追加して作成

エイズ発生動向調査によると、2013 年の岡山県における HIV 感染者は 16 名、AIDS 患者は 3 名であり、両者をあわせた新規報告数は前年より増加しました。また、2014 年 11 月 20 日までの累計報告数は 19 名であり、すでに 2013 年の年間報告数と同数となっています。

【岡山県内の保健所における HIV 抗体検査・相談件数】



2013 年のエイズ発生動向調査において、岡山県の新規 HIV 感染者は、人口 10 万対報告で 2 年連続全国第 9 位となっています。岡山県内の保健所における相談件数は、前年より減少しました。全国でも相談件数は減少傾向にあり、社会的関心の低下が懸念されます。一方、岡山県内の保健所等での HIV 検査数（人口 10 万対）は、前年より増加しています。これは、HIV 検査を受けやすくするため、岡山県が 2013 年度から、県内エイズ治療拠点病院での HIV 検査を自己負担一律 1000 円にしたことにより、検査数が増えたものとみられます。しかし、人口 10 万対と比較すると、岡山県の保健所ならびに拠点病院での HIV 検査を受けた人の数は、全国の保健所等の検査数と比べて未だ少ない状態です。

2013年新規HIV感染者報告数（上位10位）		
順位	自治体	人口10万対報告数
1	東京都	2.729
2	大阪府	1.944
3	愛知県	1.060
4	福井県	0.980
5	沖縄県	0.914
6	福岡県	0.904
7	神奈川県	0.873
8	和歌山県	0.833
9	岡山県	0.829
10	茨城県	0.739

HIV検査について

HIV に感染しているかどうかは、HIV 検査を受けないと分かりません。HIV に感染した段階では自覚症状がなく、気付かないうちに大切な人にうつしてしまうかもしれません。HIV は、たとえ感染しても感染を早期に発見すれば服薬等をつづけることで、AIDS の発症を防ぐことができます。早期発見・早期治療が AIDS 発症防止や感染拡大防止にも結びつくことから、保健所（無料・匿名）や拠点病院（一律 1000 円・即日検査）などでの HIV 検査を積極的に利用することが望まれます。

岡山県の保健所等の HIV 検査

	検査法	結果時期	正しい検査結果が得られる時期	料金	予約	備考
保健所	抗体検査	備前・美作保健所 即日（約 1 時間後）	感染が疑われる機会があつてから 3 ヶ月経過後	無料	必須	匿名
		その他の保健所・支所 1 週間後				
拠点病院	抗原抗体検査	即日 (1～2 時間後)	感染が疑われる機会があつてから 8 週間目以降	1000 円	必須	匿名では 受けられない

HIV 感染者……感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、無症候性キャリアあるいはその他として報告されたもの。

AIDS 患者……初回報告時に AIDS と診断されたもの。「いきなりエイズ」※。

（既に HIV 感染者と報告されている症例が AIDS を発症する等病状に変化を生じた場合は除く。）

※「いきなりエイズ」とは、HIV 感染後 AIDS 発症まで数年程度かかるにもかかわらず、AIDS 発症によって初めて HIV に感染したことが判明することです。

岡山県内の保健所・支所では、 定例日以外や夜間等の HIV 抗体検査を実施いたします。

- 岡山県では、「受けやすい検査」「戦略的な普及啓発」「関係者の連携強化」を3つの柱として、全県を挙げて、HIV 感染防止と「いきなりエイズ」防止に取り組む、「おかやまエイズ感染防止作戦」を平成 25 年度から実施しています。

・ [おかやまエイズ感染防止作戦（岡山県健康推進課ホームページ）](#)

＊ 県保健所・支所における検査の予約は、検査実施日前日 17 時まで受け付けており、希望者は、梅毒・性器クラミジア・B 型肝炎・C 型肝炎の検査も同時に受けることができます。

＊ 備前・美作保健所の検査日には、検査当日に結果をお知らせできる迅速検査を無料・匿名で受けることができます（要予約）。

※ 月曜日に検査を実施する保健所・支所については、前週金曜日の 17 時までに予約が必要です。

・ [（平成 26 年度 岡山県内の保健所における世界エイズデー関連 HIV 検査実施日時）](#)

- 岡山市保健所、倉敷市保健所のエイズ・性感染症相談、検査はこちらから

[岡山市保健所](#)

[倉敷市保健所](#)

- エイズ治療拠点病院の HIV 検査（電話相談は行っていません）は[こちらから](#)

【後天性免疫不全症候群（エイズ AIDS）とは】

AIDS は、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染することによっておこる病気ですが、HIV 感染＝AIDS ということではありません。HIV 感染後、自覚症状のない時期（無症候期）が数年続き、さらに進行すると、免疫が低下し、本来なら発症しない病気（日和見感染症）などを発症するようになります。抵抗力が落ちることで発症する疾患のうち、代表的な 23 の指標となる疾患が決められており、これらを発症した時点で、AIDS 発症と診断されます。現在はさまざまな治療薬が出ており、きちんと服薬することで AIDS 発症を予防することが可能になっています。

HIV に感染すると、通常 6 ～ 8 週間経過して、血液中に HIV 抗体が検出されます。感染初期にはインフルエンザに似た症状が出ることもありますが、こういった症状からだけでは HIV に感染しているかどうかを確認することはできません。HIV 検査を受けてはじめて、感染の有無を確認することができます。

【感染経路・予防方法】

HIV の感染経路は、次の 3 つです。

- (1) 性行為による感染…相手がウイルスをもっていると、粘膜や傷口から感染します。
- (2) 血液を介しての感染…注射の回し打ちなどによって感染します。
- (3) 母親から赤ちゃんへの母子感染…母親が HIV に感染している場合、妊娠中や出産時、また母乳から感染することがあります。日本では、母親が HIV 感染症の治療薬を飲むことや、母乳を与えないことで、赤ちゃんへの感染を 1 % 以下に抑えることができます。

・ [エイズ Q&A（エイズ予防情報ネット）](#)

HIV の感染力は弱く、性行為以外の社会生活のなかでうつることはまずありません。性行為におけるコンドームの正しい使用は、HIV 感染／AIDS 予防にとって最も有効な手段です。

HIV 等性感染症検査目的での献血は絶対に行わないでください!

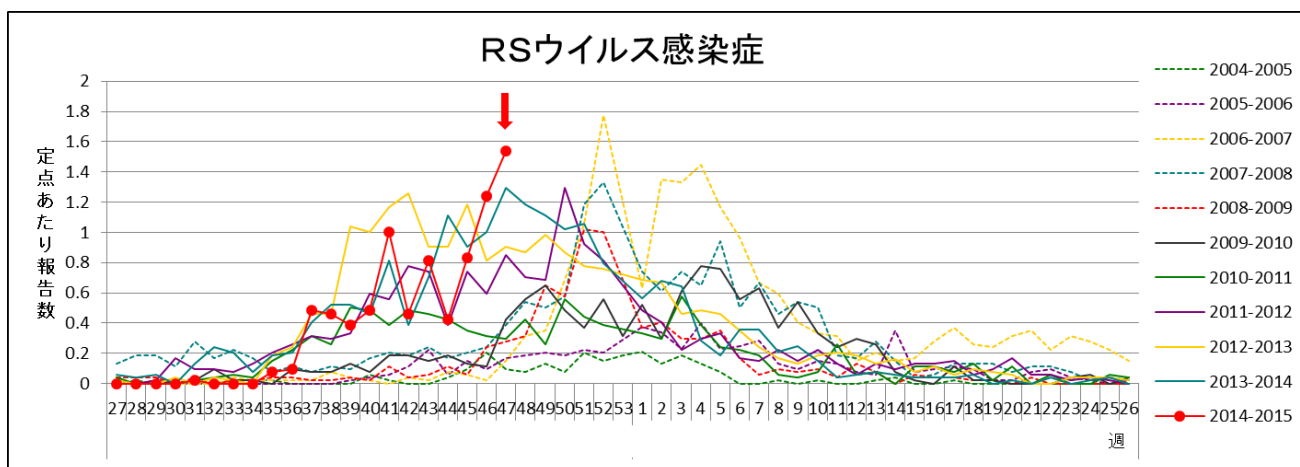
HIV やその他の性感染症に感染しても、検査ではわからない期間があります。また、献血された血液を検査した結果、HIV が陽性となっても、日本赤十字社は検査結果の通知は行いません。

HIV 等性感染症の検査は、保健所および医療機関等で受けてください。

今週の注目感染症

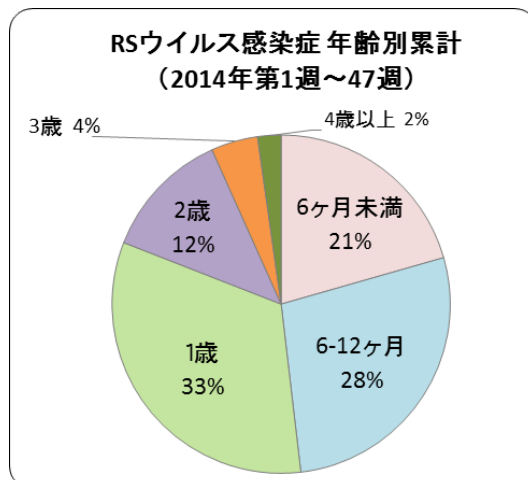
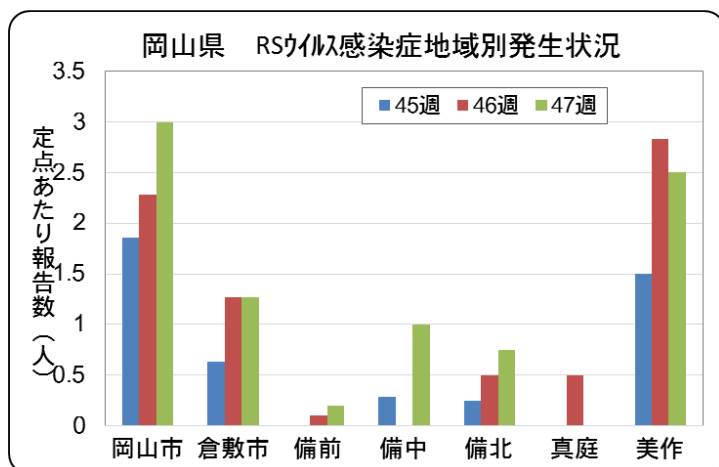
2. RSウイルス感染症

【岡山県の発生状況】



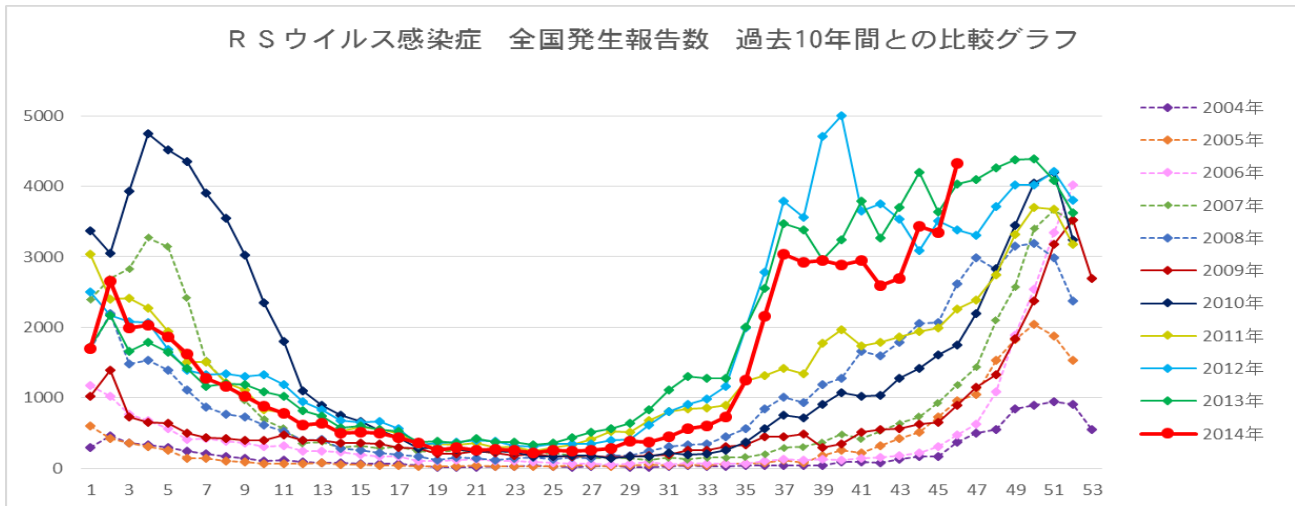
※RSウイルス感染症は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年 27 週～翌年 26 週を 1 シーズンとしてグラフを作成しています。

RS ウイルス感染症は、県全体で 83 名（定点あたり 1.24 → 1.54 人）の報告があり、前週より増加しました。第 45 週から 3 週連続で増加しており、過去 10 年間の同時期と比較して、最も多くなっています。地域別では、岡山市（3.00 人）、美作地域（2.50 人）、倉敷市（1.27 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。また、備前地域、備中地域、備北地域でも発生がみられ、県内全域での流行がみられます。2014 年第 47 週までの年齢別累計割合では、1 歳未満の乳児が全体の 49%、ついで 1 歳が 33%となっています。



この感染症は、乳児が感染すると重症化する恐れがあり、症状が悪化しても平熱か 38℃以下のことが多いため、お子さんの様子に注意することが必要です。熱が下がっても症状が改善せず、ゼイゼイとのがが鳴るなどの症状があるときは、早めに医療機関を受診してください。今後の発生状況に注意するとともに、乳児がいる家庭では、特に感染予防に努めて下さい。

【全国の発生状況】



第46週（11/10～11/16）全国の患者報告数は、前週より大きく増加し、10年間の同時期と比較してもっとも多くなりました。都道府県別では、山形県（3.63人）、鳥取県（3.32人）、徳島県（3.17人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、島根県（2.91人）、広島県（2.42人）などの近隣県でも多くの患者が報告されています。

【RSウイルス感染症とは】

RSウイルス感染症は、RSウイルスによる急性呼吸器感染症です。この感染症は、例年冬季に流行がみられていましたが、近年では夏頃から患者が報告されるようになりました。感染後2～8日の潜伏期間ののち、発熱、鼻汁、咳などの風邪症状が現れます。約70%の乳児が、1歳になるまでにRSウイルスに感染し、その約3割が肺炎や細気管支炎を引き起こします。母体からの移行抗体では感染を防ぐことができないため、生後6ヶ月以下の乳児においては、重症化し入院を必要とすることもあります。年齢を問わず、生涯にわたり感染・発症を繰り返しますが、通常は年齢が上がるにつれて、重症化しにくくなります。

【感染経路】

感染している人が、咳やくしゃみをした際に飛び散るしぶきを浴びて、ウイルスを吸い込む飛沫感染や、ウイルスがついている手指や物品を触ったり舐めたりすることなどによる、間接的な接触感染で感染します。

【予 防】

RSウイルスの再感染では、風邪のような軽症であることが多いため、RSウイルスに感染していることに気づかずに、人にうつしてしまうことがあります。そのため、せきなどの呼吸器症状がある年長児や成人は、可能な限り1歳以下の乳幼児との接触を避けることが感染予防に繋がります。風邪をひいたらマスクをする、鼻をかんだ後はしっかりと手を洗う、乳幼児が使うおもちゃなどは消毒用アルコールで拭くなど、乳幼児への感染予防に努めましょう。

【治 療】

特効薬はないため、症状に応じた対症療法を行います。

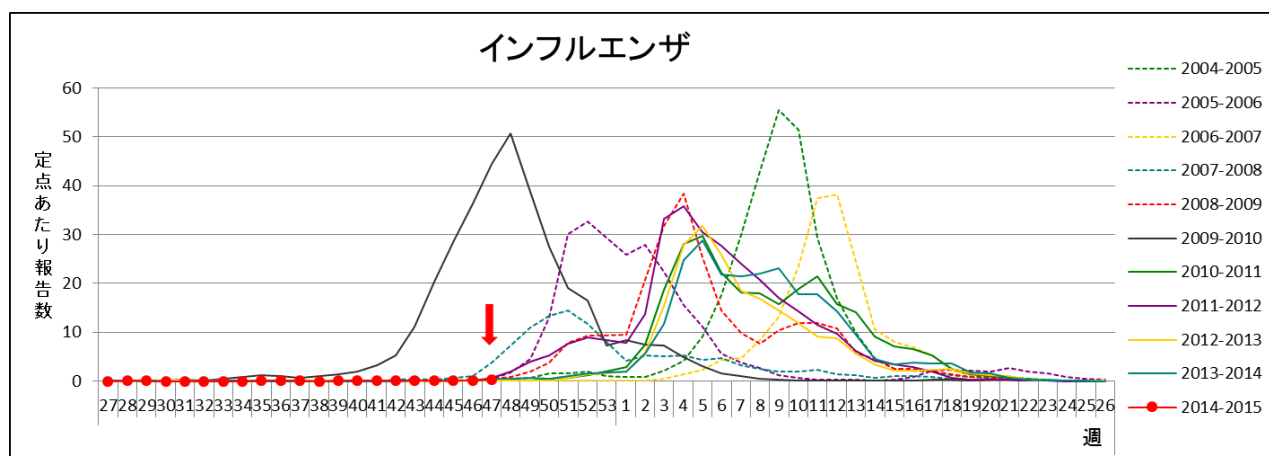
[RSウイルス感染症とは（国立感染症研究所）](#)

[RSウイルス感染症に関する Q&A（厚生労働省）](#)

インフルエンザ週報 2014 年 第 47 週 (11 月 17 日 ~ 11 月 23 日)

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 20 名の発生がありました（84 定点医療機関報告）。
- インフルエンザによるとみられる学校の臨時休業、入院患者の報告はありませんでした。

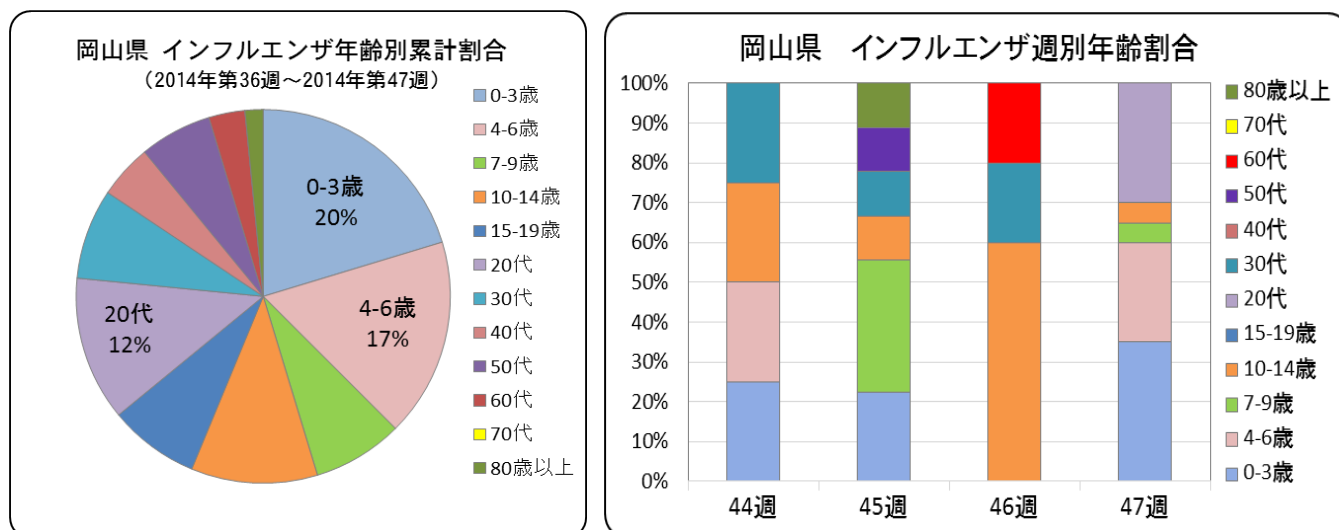


インフルエンザは、倉敷市で 15 名、岡山市で 4 名、備北地域で 1 名の報告があり、県全体では 20 名（定点あたり 0.06 → 0.24 人）の発生となりました（84 定点医療機関報告）。県内の発生は、まだ散発的ですが、報告数は増加しています。特に倉敷市（0.94 人）では、定点あたり報告数が 2 週連続で増加しました。

第 46 週全国集計によると、全国の定点あたり報告数は 0.37 人であり、4 週連続で増加しています。都道府県別では、山形県（1.15 人）、大分県（0.97 人）、岩手県（0.84 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

インフルエンザの本格的な流行は、通常 12 月に入ってからといわれますが、全国ではインフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業も増加しています。手洗い・うがいを励行し、感染予防を心がけましょう。

1. 年齢別発生状況



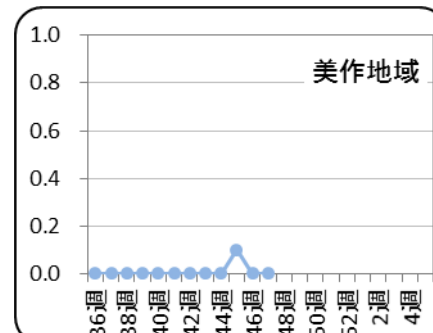
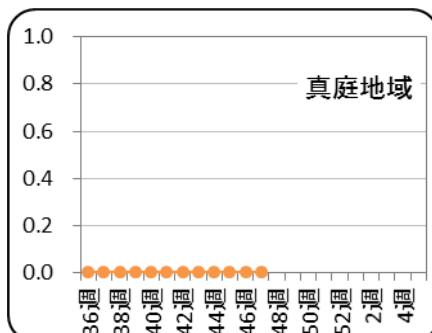
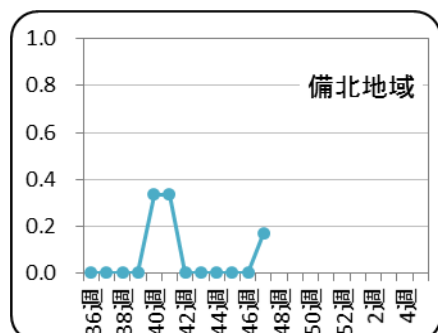
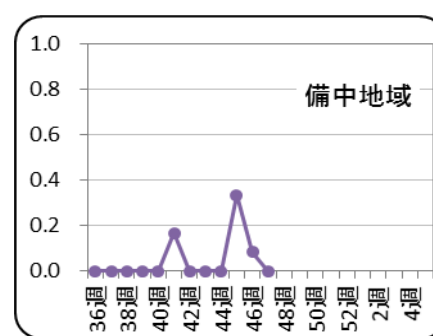
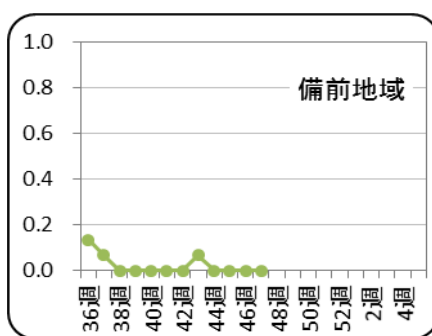
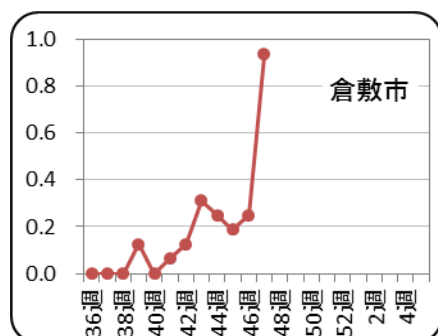
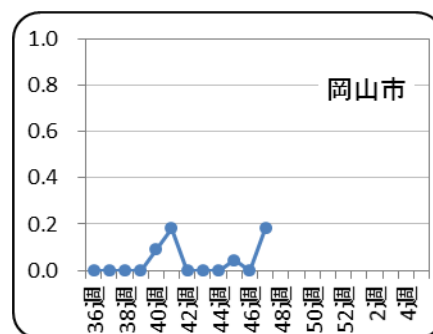
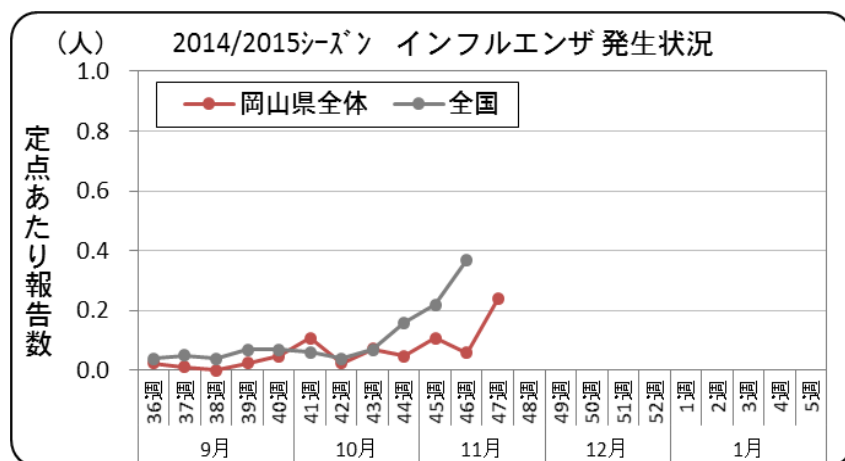
今シーズン（2014 年 9 月 1 日～）の年齢別累計割合は、0-3 歳 20%、4-6 歳 17%、20 代 12% の順で定点あたり報告数が多くなっており、9 歳以下の子供が全体の 45% を占めています。幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。

2. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	20	▲	備 中	患者数	0	▼
	定点あたり	0.24			定点あたり	0.00	
岡山市	患者数	4	▲	備 北	患者数	1	▲
	定点あたり	0.18			定点あたり	0.17	
倉敷市	患者数	15	▲	真 庭	患者数	—	→
	定点あたり	0.94			定点あたり	—	
備 前	患者数	0	→	美 作	患者数	0	→
	定点あたり	0.00			定点あたり	0.00	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ▼ 1.1～2倍未満の減少 ▼ 1.1未満の増減 →
1.1～2倍未満の増加 ▲ 2倍以上の増加 ▲



2. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。

1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち 欠席者数		施設数合計		休園・ 休校数		学年閉鎖 施設数		学級閉鎖 施設数		初発 年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	—	11	—	10	—	1	—	—	—	—	—	1	H26. 10. 21
岡山市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
倉敷市	—	11	—	10	—	1	—	—	—	—	—	1	H26. 10. 21
備前地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備中地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備北地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
真庭地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
美作地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

第 47 週 : 0 施設

累計 : 1 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	—	—	0	1	—	—	—	—	—	—

《インフルエンザの予防接種はお早めに！》

インフルエンザのワクチンによる効果が発現するまで、2 週間程度かかります。
本格的な流行がはじまる **12 月中旬までに、予防接種を済ませることをお勧めします。**
予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
流行するウイルスの型が変わるため、毎年、接種することが望めます。

ワクチンの在庫および予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

保健所別報告患者数 2014年 47週 (2014/11/17～2014/11/23)

2014年11月26日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	20	0.24	4	0.18	15	0.94	—	—	—	—	1	0.17	—	—	—	—
RSウイルス感染症	83	1.54	42	3.00	14	1.27	2	0.20	7	1.00	3	0.75	—	—	15	2.50
咽頭結膜熱	7	0.13	—	—	1	0.09	—	—	1	0.14	1	0.25	—	—	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	63	1.17	32	2.29	16	1.45	1	0.10	7	1.00	3	0.75	1	0.50	3	0.50
感染性胃腸炎	524	9.70	174	12.43	163	14.82	84	8.40	21	3.00	46	11.50	3	1.50	33	5.50
水痘	59	1.09	29	2.07	5	0.45	5	0.50	10	1.43	3	0.75	1	0.50	6	1.00
手足口病	29	0.54	17	1.21	5	0.45	2	0.20	4	0.57	—	—	1	0.50	—	—
伝染性紅斑	4	0.07	—	—	3	0.27	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	25	0.46	15	1.07	4	0.36	2	0.20	2	0.29	1	0.25	—	—	1	0.17
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	3	0.06	1	0.07	1	0.09	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	8	0.15	4	0.29	1	0.09	—	—	—	—	—	—	1	0.50	2	0.33
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	4	0.33	1	0.20	1	0.25	1	1.00	1	1.00	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2014年 47週

(2014/11/17～2014/11/23)

2014年11月26日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	20	0.24	4	0.18	15	0.94	—	—	—	—	1	0.17	—	—	—	—
咽頭結膜熱	7	0.13	—	—	1	0.09	—	—	1	0.14	1	0.25	—	—	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	63	1.17	32	2.29	16	1.45	1	0.10	7	1.00	3	0.75	1	0.50	3	0.50
感染性胃腸炎	524	9.70	174	12.43	163	14.82	84	8.40	21	3.00	46	11.50	3	1.50	33	5.50
水痘	59	1.09	29	2.07	5	0.45	5	0.50	10	1.43	3	0.75	1	0.50	6	1.00
手足口病	29	0.54	17	1.21	5	0.45	2	0.20	4	0.57	—	—	1	0.50	—	—
伝染性紅斑	4	0.07	—	—	3	0.27	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	3	0.06	1	0.07	1	0.09	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	8	0.15	4	0.29	1	0.09	—	—	—	—	—	—	1	0.50	2	0.33
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—					—	—
流行性角結膜炎	4	0.33	1	0.20	1	0.25	1	1.00	1	1.00					—	—

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2014年 第47週 2014/11/17～2014/11/23)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	20	-	-	4	1	2	3	2	-	-	1	-	1	-	6	-	-	-	-	-

疾病名	合計		-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	83	11	17	31	15	6	1	—	1	—	—	—	—	1	—	—
咽頭結膜熱	7	—	—	4	2	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	63	—	—	2	5	4	4	8	7	8	7	6	9	1	2	2
感染性胃腸炎	524	14	32	98	54	64	47	40	27	16	26	14	34	10	48	48
水痘	59	1	7	10	6	5	7	11	4	2	3	—	2	—	1	1
手足口病	29	—	1	8	11	2	2	1	2	—	1	1	—	—	—	—
伝染性紅斑	4	—	—	—	—	—	1	1	2	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	25	1	12	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	3	—	—	—	—	—	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	8	—	—	—	—	—	1	—	1	1	1	1	2	—	1	1

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	1	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

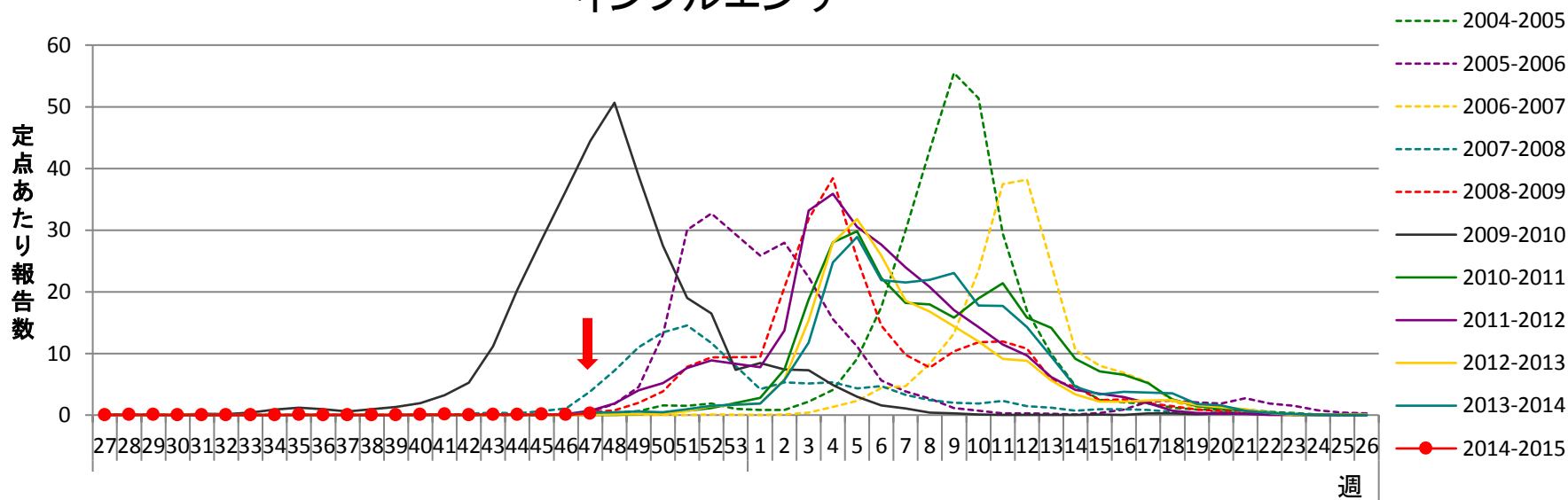
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

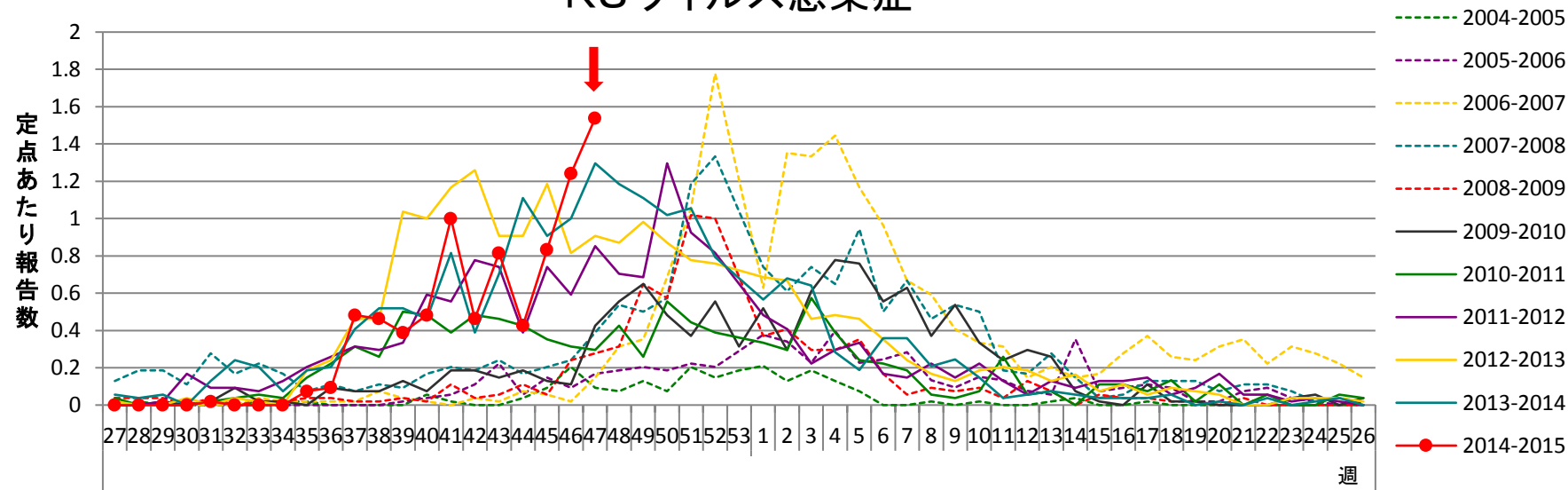
2014 年 47 週

分類	疾病名	2014		2013	疾病名	2014		2013	疾病名	2014		2013
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ペスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	1	328	358	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	－	－	腸管出血性大腸菌感染症	－	68	87
	腸チフス	－	－	1	パラチフス	－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	－	1	－	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	－	7	5
	エキノコックス症	－	－	－	黄熱	－	－	－	オウム病	－	－	－
	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－	キャサナル森林病	－	－	－
	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－	コクシジオイデス症	－	－	－
	サル痘	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	2	2	腎症候性出血熱	－	－	－
	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－	炭疽	－	－	－
	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	2	－	デング熱	－	1	－
	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－	ニパウイルス感染症	－	－	－
	日本脳炎	－	－	1	日本紅斑熱	－	4	2	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－
	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－	ブルセラ症	－	－	－
	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－	発しんチフス	－	－	－
	ボツリヌス症	－	－	－	マラリア	－	－	1	野兔病	－	－	－
	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－	リフトバレー熱	－	－	－
	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	－	27	24	レプトスピラ症	－	－	2
	ロッキー山紅斑熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
	五類	アメーバ赤痢	－	9	20	ウイルス性肝炎*3	－	7	13	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	－	7
急性脳炎*4		－	9	5	クリプトスポリジウム症	－	－	－	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	1	4
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		－	3	3	後天性免疫不全症候群	－	19	18	ジアルジア症	－	－	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症		－	－	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	－	侵襲性肺炎球菌感染症	－	20	20
水痘(入院例に限る。)		－	3	－	先天性風しん症候群	－	－	－	梅毒	－	16	8
播種性クリプトコックス症		－	－	－	破傷風	－	1	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	－	－	－
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		－	1	1	風しん	－	2	76	麻しん	－	6	3
薬剤耐性アシネトバクター感染症		－	－	－		－	－	－		－	－	－

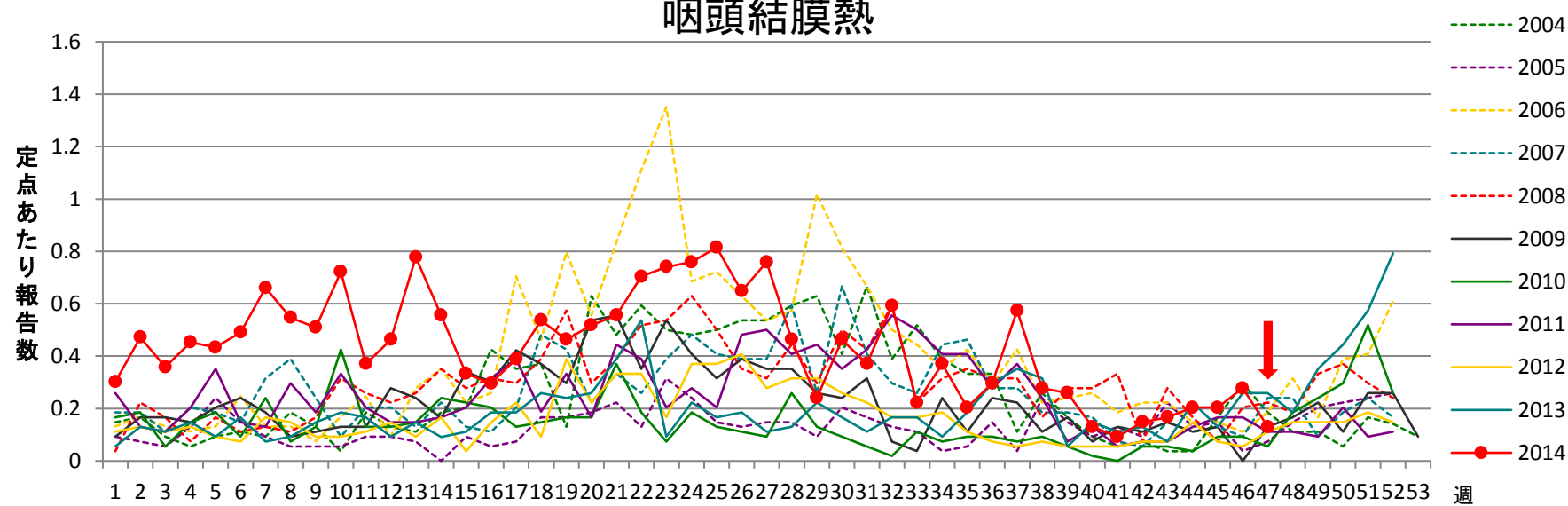
インフルエンザ



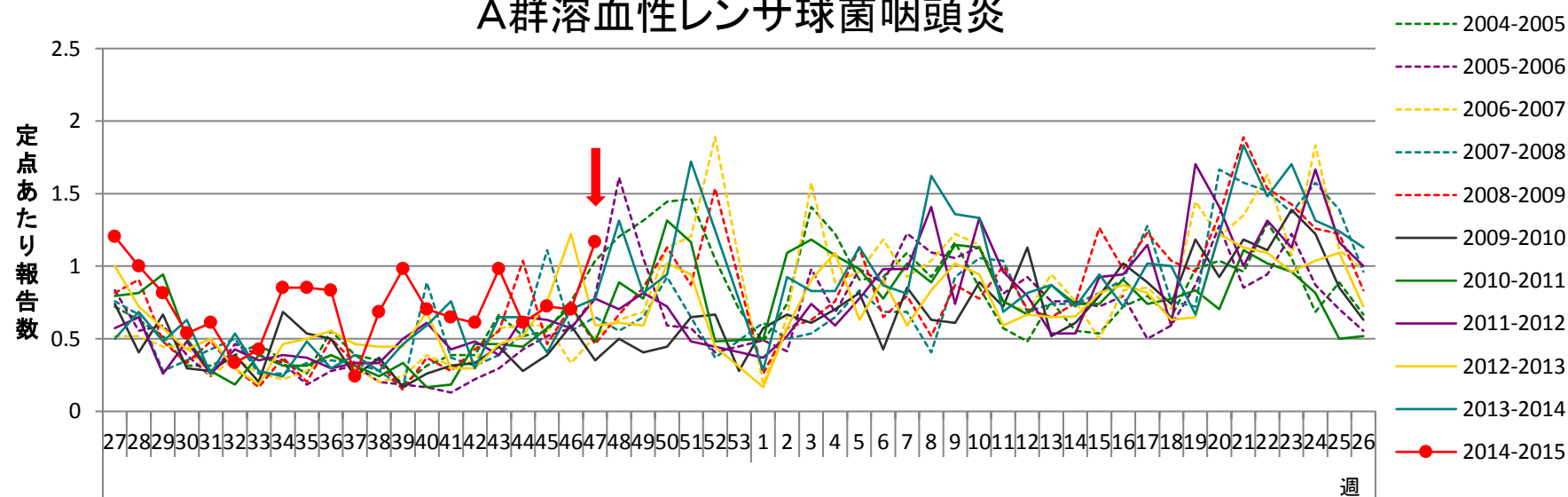
RSウイルス感染症



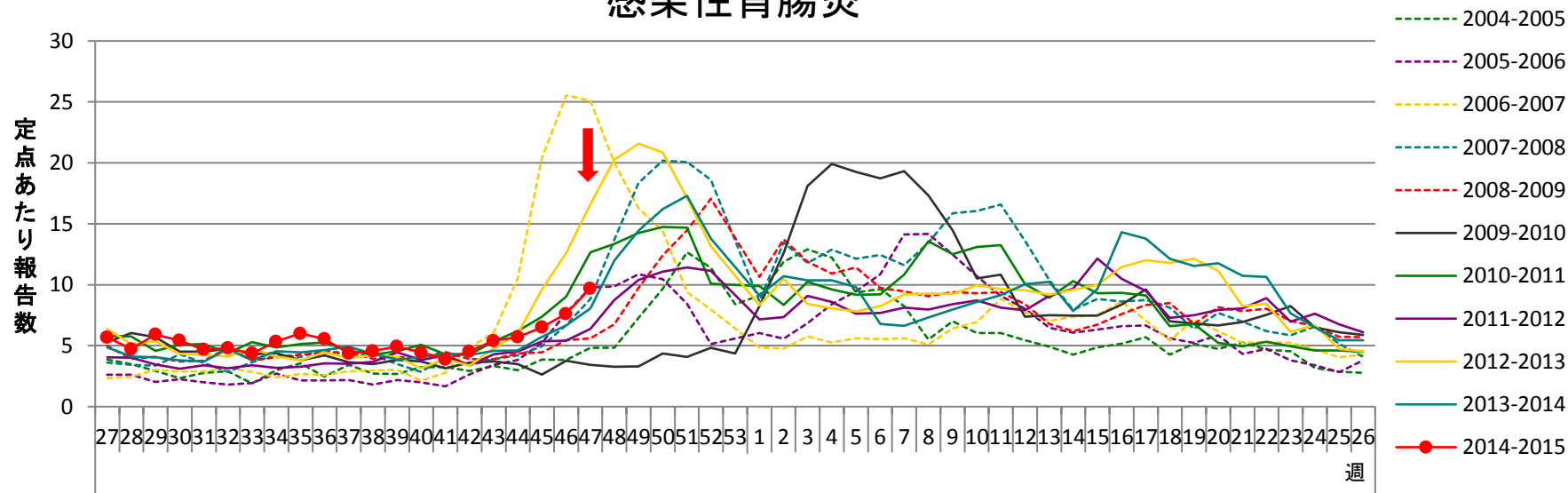
咽頭結膜熱



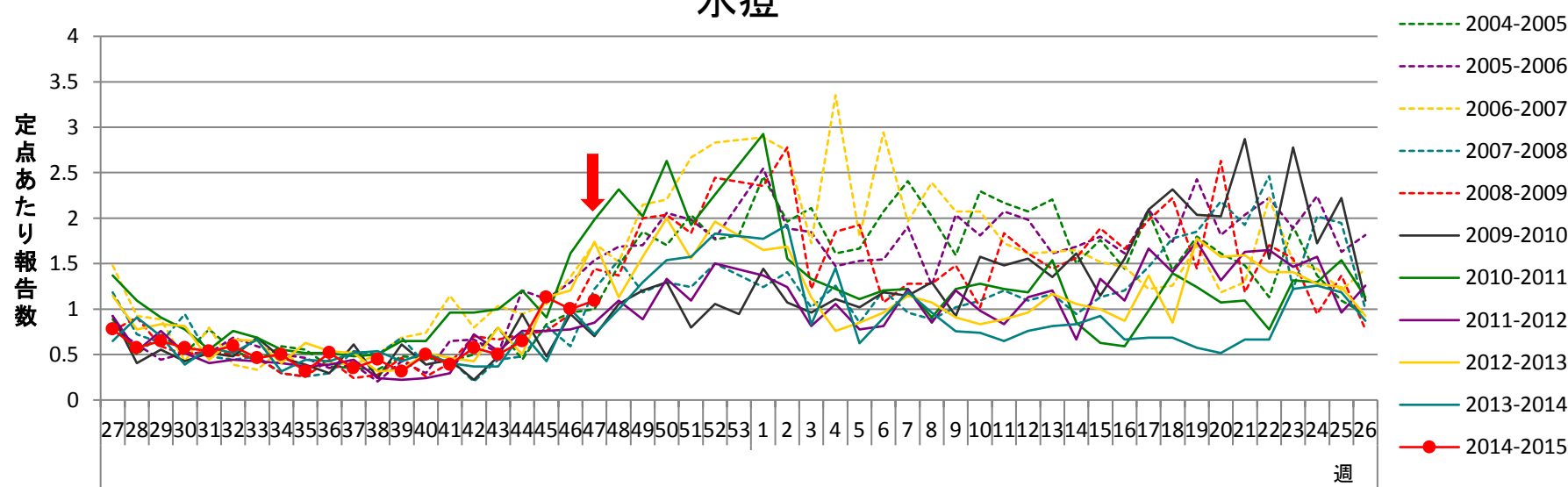
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



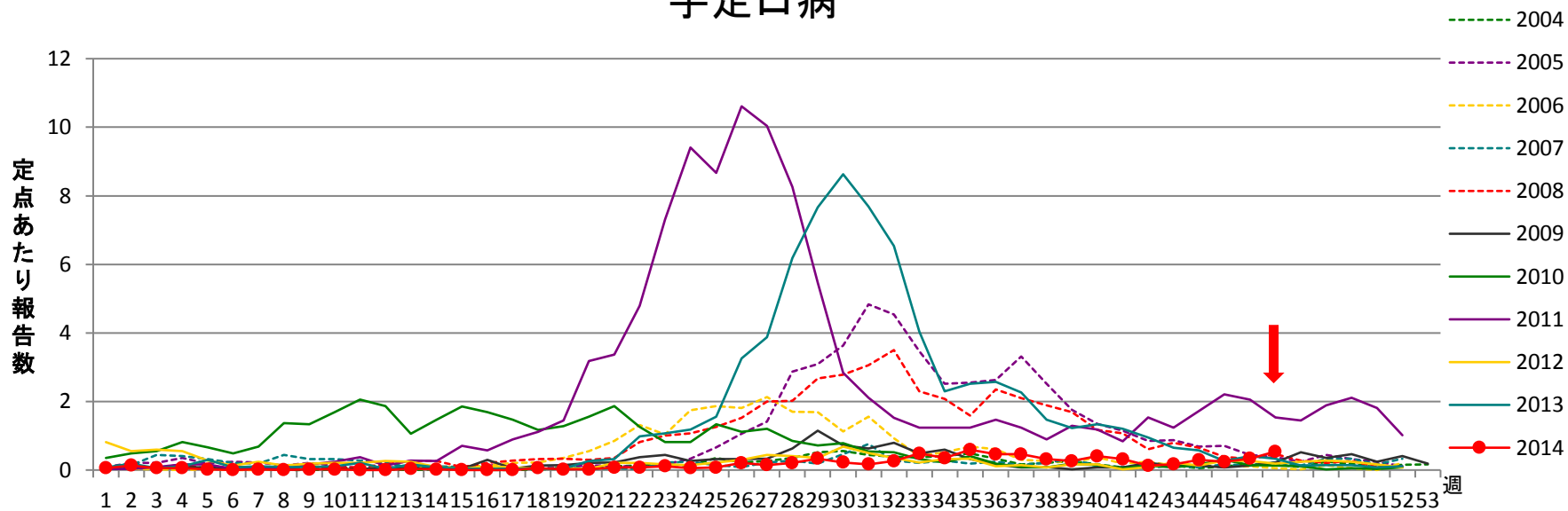
感染性胃腸炎



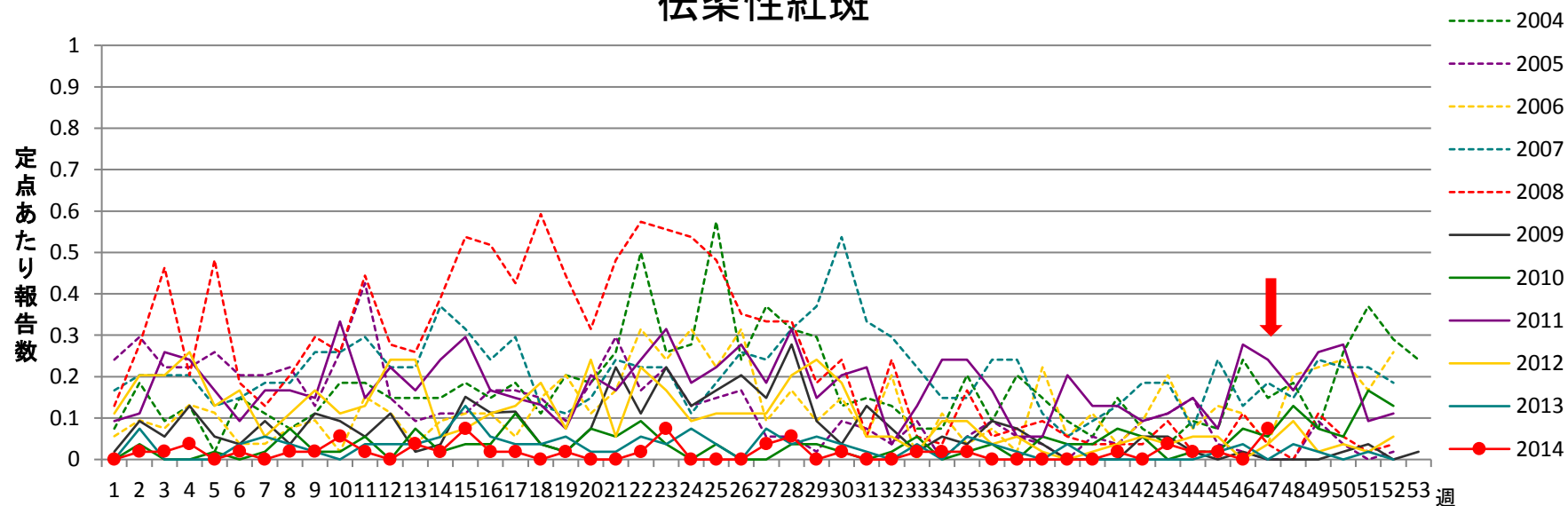
水痘



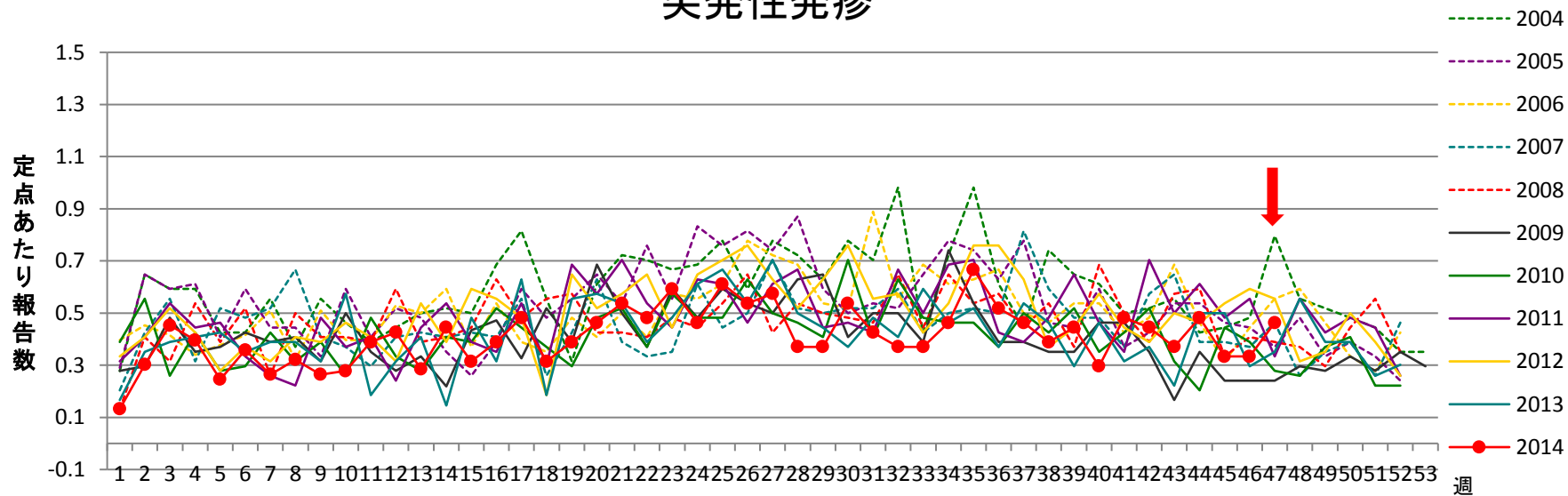
手足口病



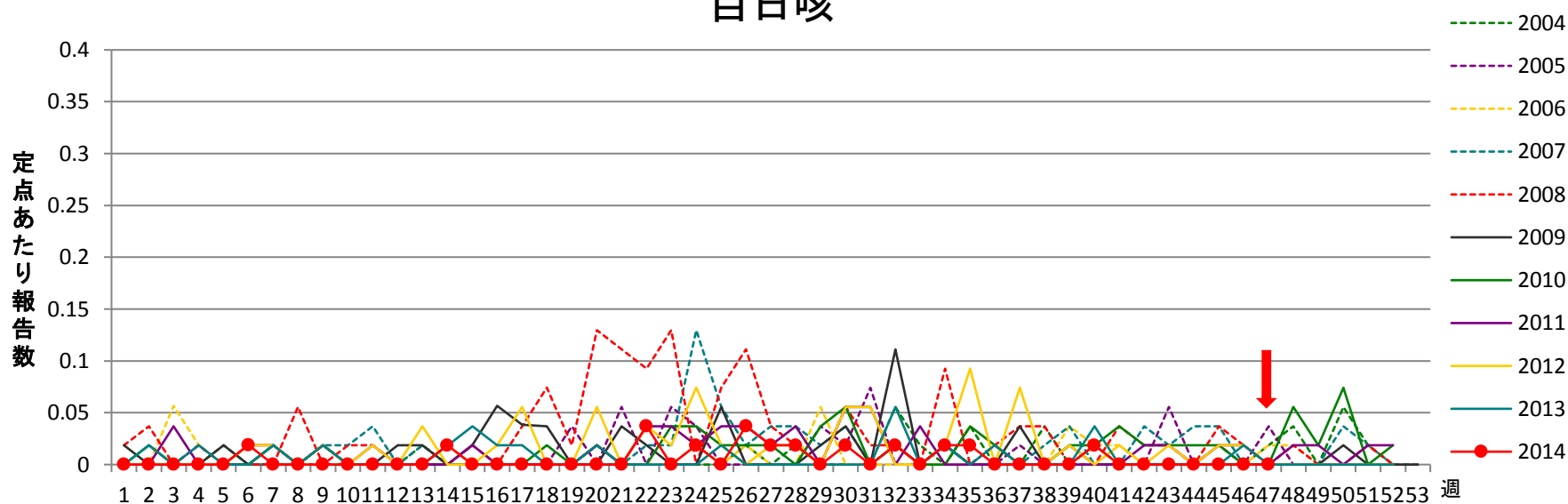
伝染性紅斑



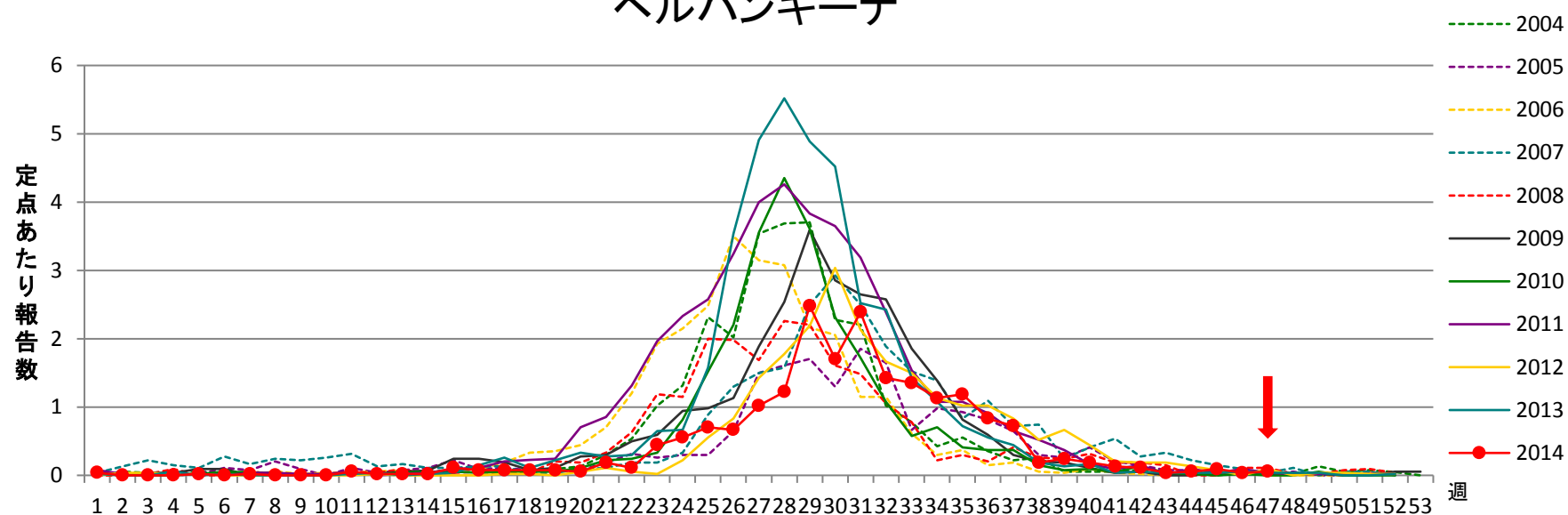
突発性発疹



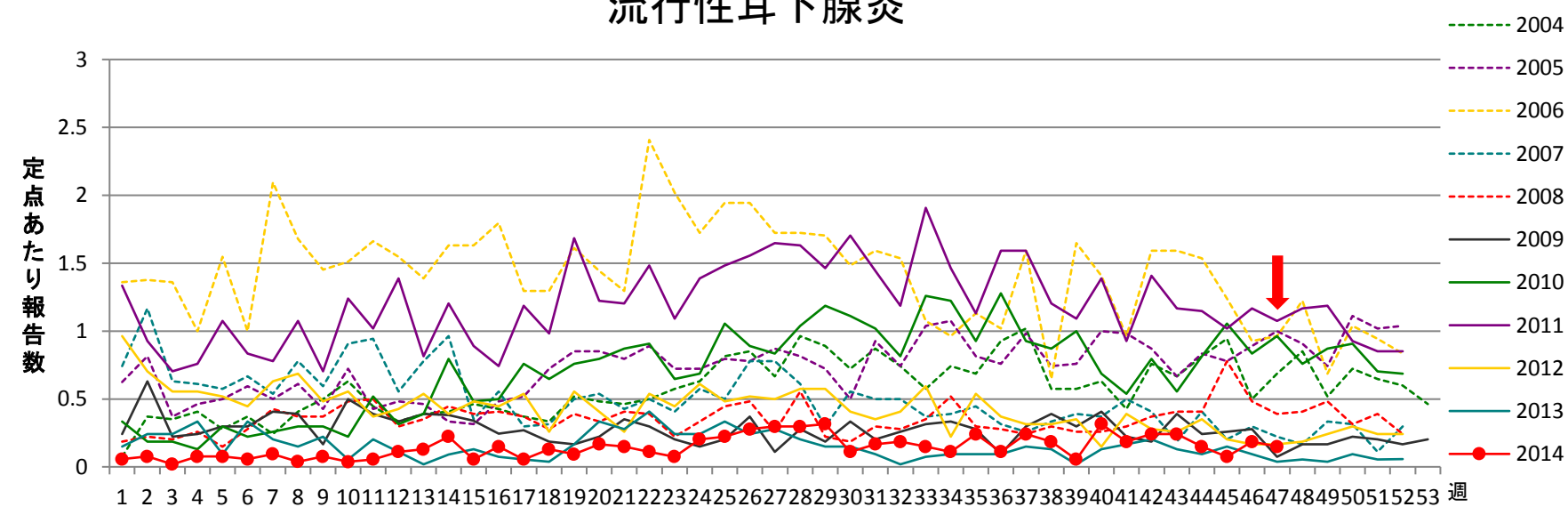
百日咳



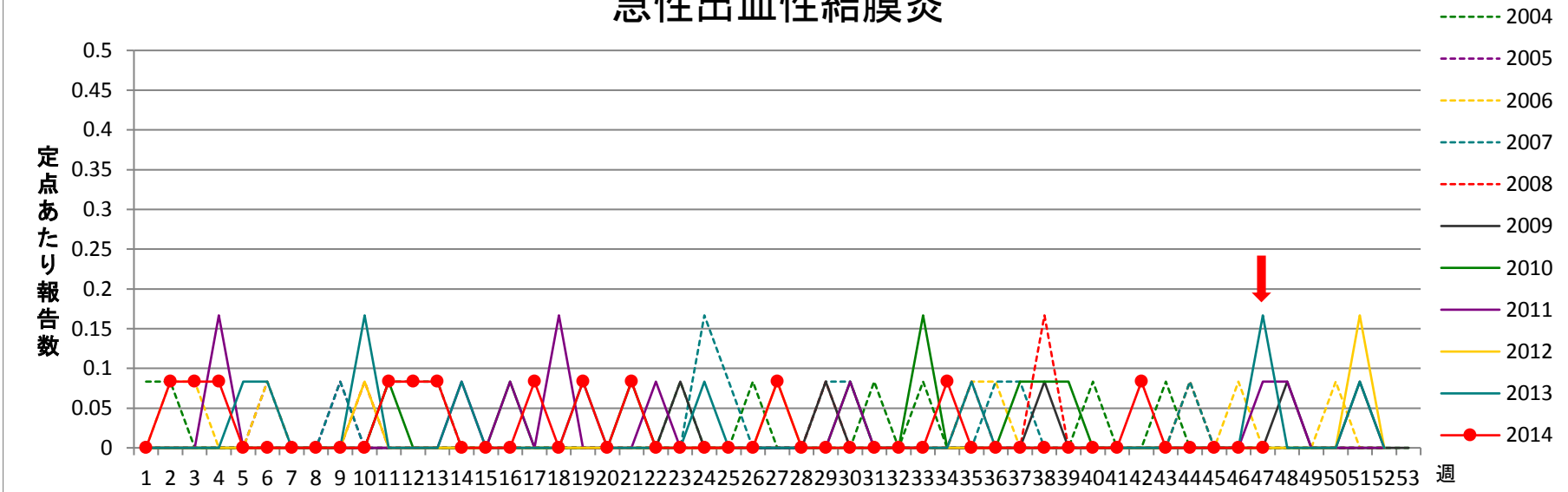
ヘルパンギーナ



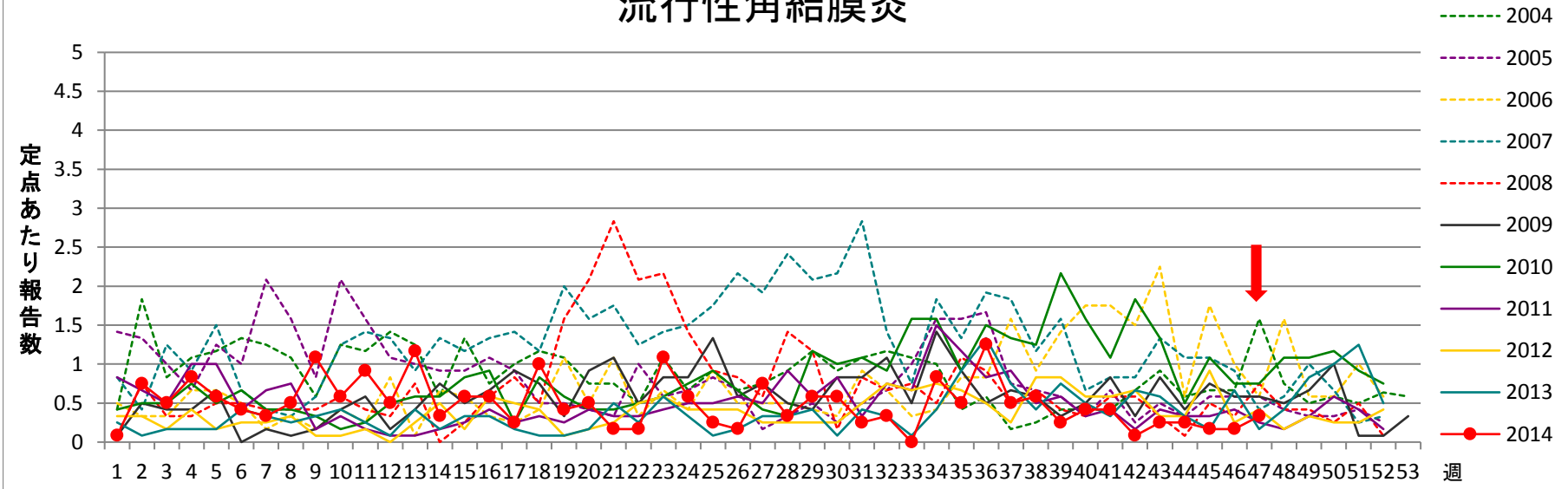
流行性耳下腺炎



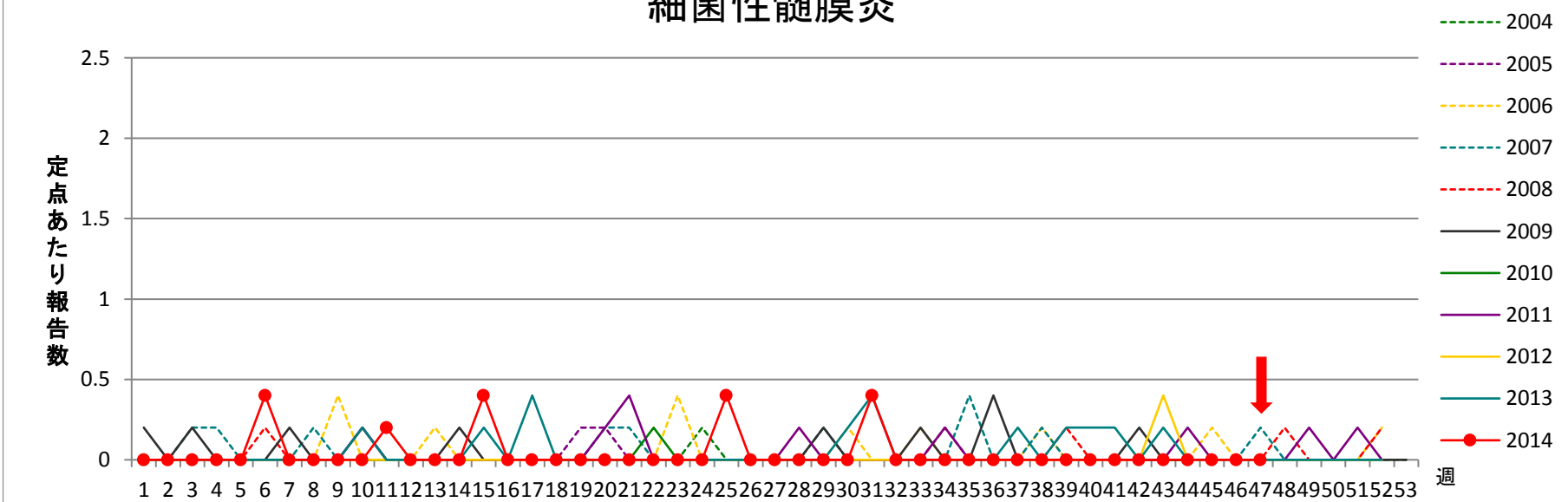
急性出血性結膜炎



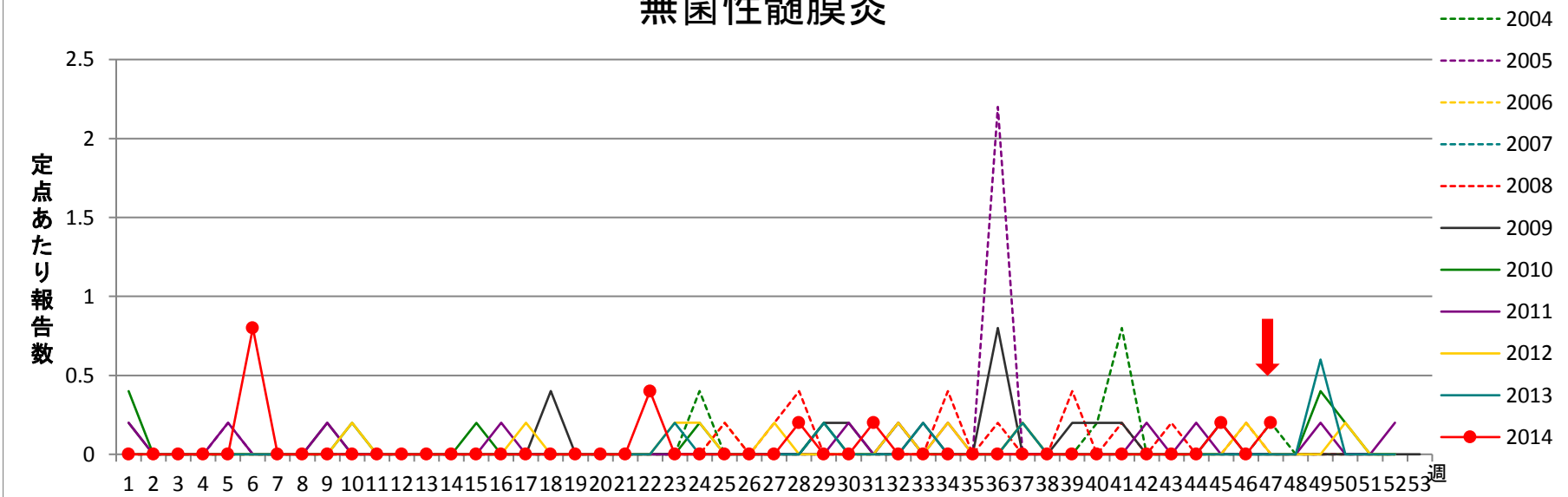
流行性角結膜炎



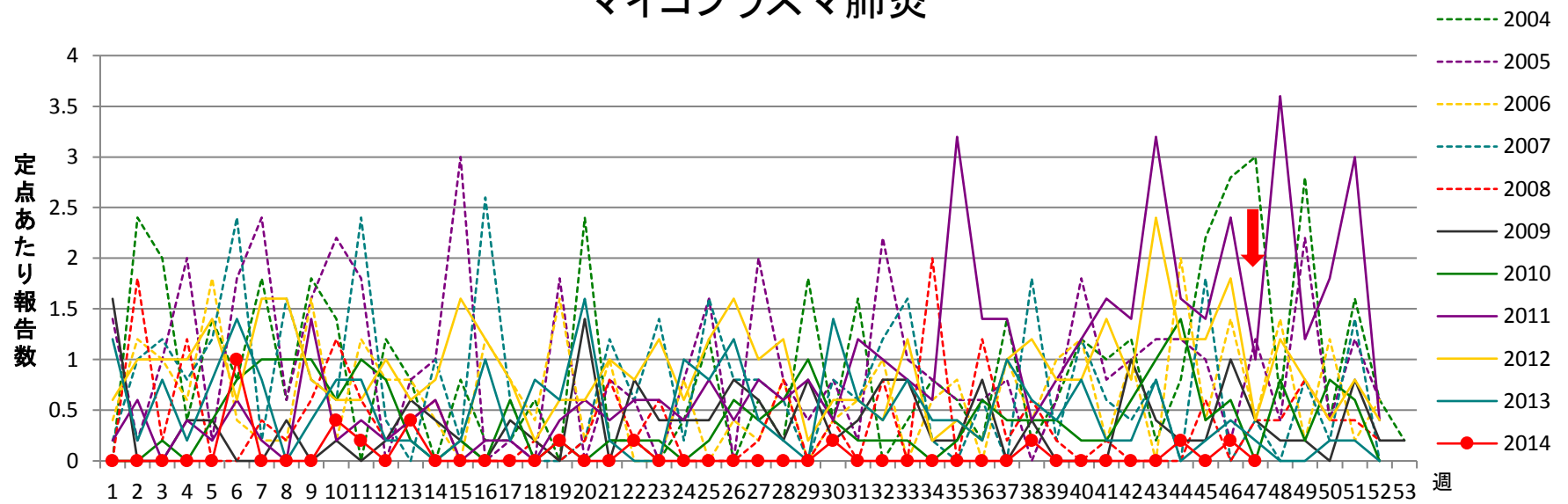
細菌性髄膜炎



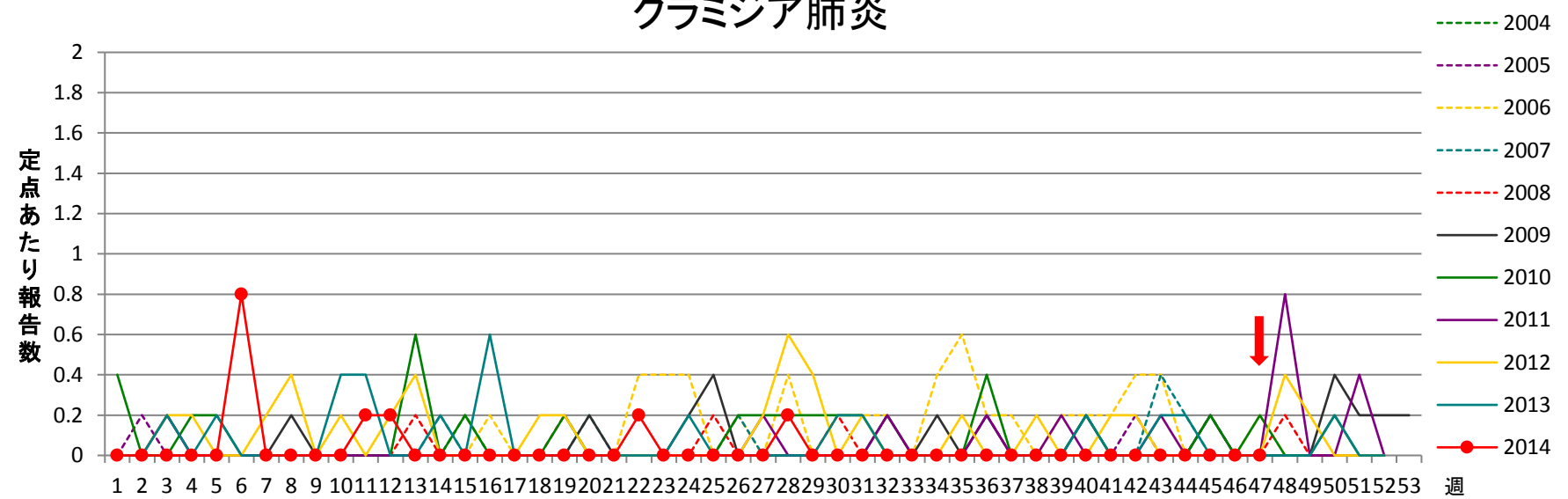
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

